

令和3年度 第1回上牧町総合教育会議 議 事 録

- 日 時 令和3年8月6日(金)午後1時30分から午後3時00分まで
- 場 所 上牧町役場 2階 第2会議室
- 出席者 今中町長、松浦教育長、暁委員、土井委員、東谷委員、渡邊委員
- 事務局 松井部長、丸橋課長、野崎課長、辻村主幹、岡田指導主事、千葉指導主事、山下理事、日高課長補佐、梅野
- 次 第 開会
案件
 - 1 上牧町教育大綱について
 - 2 上牧町学校適正化について閉会

●議事概要

町長挨拶

- ・暑い日が続いているが、週末の台風がどうなるかと心配している。警報等によりワクチン接種を中止せざるを得ないという状況にならないことを願っている。ワクチン接種(65歳以上)は、7月末時点で1回目の接種率が96%、2回目の接種率が89%というような形で進んでおり、今週末でほぼ終了すると考えている。65歳以下については順次進めていく予定で、先日12歳から15歳の接種開始にあたり、ホームページや放送で案内を行った。ただし、12歳から15歳は保護者同伴を原則としており、集団接種ではなく個別接種としている。すでに予約を開始している服部記念病院が中心となり、今後個人病院でも始まる予定である。いずれにしてもワクチンは有効なので、1人でも多くの方に接種していただくことが人々の安全につながるのではないかと考える。皆さまにもぜひ広めていただけたらと思う。
- ・学校適正化については、概ね中学校2校を1校に統廃合しようということで、適正化協議会の中で進んでいる。小学校についても統廃合はやむなしという状況であるが、様々な条件があるので、今後も議論を進めながら決めていこうというところである。あわせて保育所、幼稚園についても認定こども園を考える必要があると思う。一足飛びにはいれないが、町の財源等も考え、しっかりと責任をもって計画を立てながら着実に進めていきたい。今日は委員の皆さま方の忌憚のない意見をお聞かせいただき、また理事者側の考えもお聞きいただけたらと思う。

事務局から、案件1 上牧町教育大綱について説明

今中町長 令和3年3月に上牧の学び推進プランが策定されたが、上牧町教育大綱をこれまでどおり別途策定するか、学びの推進プランをもって教育大綱を置き換えるか、また策定する場合は対象期間をどうするかについて意見をいただきたい。

東谷委員 まず総合計画があって、その下にそれぞれの大綱や計画が付随している。総合計画を避けては他の計画を立てることができないので、大綱を策定する場合は総合計画の時期とあわせてつくっていくのが望ましい。異なる時期・期

間でつくってしまうと、それぞれの内容の整合性が取れなくなってくるので、できる限り総合計画にあわせていくのが本来の姿かと思う。

暁委員 時期と期間に関しては他のものとそろえる方が比較も検討もしやすいと思う。また、学び推進プランですべてを網羅できるのであれば、教育大綱を別途策定せず、一本にする方が検討する我々も事務局も分かりやすいのではないかと思う。

渡邊委員 学び推進プランに盛り込まれているのであれば、わざわざ教育大綱をつくる必要はないかと思う。

土井委員 私もそう思う。

事務局 今回概要版をつくる予定をしていたが、学び推進プランの内容にあわせてつくるかどうかというところもお諮りしたい。

暁委員 概要版については、どれぐらいの量を考えておられるか。

事務局 A3裏表を折りたたんで4ページ程度のものを全戸配布でと考えている。今回学びの推進プランの内容をベースにするとすると、ある程度内容は充実したものになると思う。

暁委員 総合計画、福祉計画など様々なところから概要版が出ているので、受け取る町民側からすると、概要版でいっぱいになり、保管がしづらい。町内の概要版をひとつにまとめたものがあれば、活用しやすいように思う。そうすれば、直接必要のない部分も見てもらえる機会が増え、上牧町で行われていることを多くの住民さんに知っていただけるかもしれない。

今中町長 概要版のまとめについては、策定期間が異なってしまうので厳しいと思うが、研究をしてまとめられる部分はまとめる形で考える。教育大綱については、別途策定するよりも、すでに包含されているものがあるので、それで十分という意見をいただいたので、そのようにさせていただく。

教育総務課主幹から、案件2 上牧町学校適正化について説明

今中町長 まず中学校2校を統合するということで、協議会の中では一応考え方がまとまったという説明があった。これについてはどうか。

東谷委員 上牧第二中学校（以下、「二中」という。）は、最大の通学距離から考えると難しい。地図を見ても、裏側からの変則的な通学路にしないと距離が長くな

る。

渡邊委員 友が丘の住民から見ると、二中に上牧中学校（以下、「上中」という。）の生徒が来れば道路がパンクする。今でも友が丘の入口周辺は、小中学生がぶつかり合っているような状況。特に傘をさしている日は道幅が非常に狭く危険である。二中にもってくるのであれば道路から考えないと大変なことになると思う。

松浦教育長 中学校の統合に関しては、ここに至るまで様々な意見の整理を行ってきた。その中で、子どもの安全確保を第一優先とすることに加え、教員の体制についても考えてきた。現在、二中には1人で2教科を担当している教員が複数いる。統合して300人から400人の生徒数になることで、14人から15人の教員が増える。そうなれば、学年で教科の調整ができ、切磋琢磨する中で教員の資質もアップすると思う。子どもたちのことだけでなく、教員の働く条件としてもよい方向に進むことが考えられる。すべての保護者や住民さんの意見を聞き入れることは到底不可能なことであるが、やはり統合してよかったと思ってもらえるような環境を整えていく必要がある。そのあたりの環境整備も含め、すすめていかななくてはならないと思う。

土井委員 やはり保護者としては通学路の問題が一番気になるところ。距離や時間だけでなく、安全に通学できるかということが知りたい。早めに保護者にも伝えてもらえると、安心できると思う。

今中町長 通学路の安心・安全については先般の事故発生以来、国の方から見直しの指示が出ており、上牧町でもガードパイプの設置等を進めている。より一層保護者の方々に安心していただけるよう、安全な通学路をしっかりとつくり、皆で点検を行っていききたい。あわせて、カメラの設置が進んできているので、そういう面でも安全対策が図られてきているのではないかと思う。

暁委員 交通事故だけでなく、気候変動により年々暑さが厳しくなっていることもあるので、長時間歩くことについての健康面での安心・安全も配慮いただきたいと思う。また令和8年度の小学校3校あわせた新入生が108人ということであったが、この数はこれまでの小学校1校の入学児童数程度だと思う。複数学級を考えるとであれば、今2校にしても、いずれまた1校にしないといけないときが来ることが想定される。それならば今のまま3校にしておいて、最終的に1校にするということも選択肢のひとつではないかと思う。複数学級のメリットが中心になっているが、わが子のように人見知りの子どもにとっては、クラス替えなくスムーズに次の学年に進むことができるという単学級のメリットもある。何度も編制することの方が子どもの負担が大きい

ように思うので、ゆっくり検討していきながら進めるということもひとつの方法ではないのかなと思った。先日の中学校訪問の際、先生方から、入学してきた子どもたちの学習に向かう姿勢があまり確立されていないことや小学校の外国語教育と中学校の英語科に大きなギャップがあることに苦労されているお話をうかがった。小中学校の連携等も含めた編制が必要なのかなと感じた。それらも踏まえ、将来的な統廃合や義務教育学校について考えていただけたらよいと思う。

今中町長 将来的には小学校の統廃合が必要となるということで認識いただいているが、どこの小学校を統合するという部分は今後すすめていくので、今いただいた意見もあわせて協議をすすめていきたい。やはり子どもたちの心身の育成を考えたときに、どの方法がいいかということになってくる。一番の根本は、子どもたちが安心して学べることや子どもたちが大人に向けて心と体が健康になっていくこと。これらは我々の責任であるので、そういったところもあわせながら考えていけたらと思う。また当然保育所・幼稚園の子どもたちも減っていくので、それも並行しながら、考えていく必要がある。施設や財政の問題も整理しながら、いつから行うか時期も考えていく。義務教育学校が保護者の方々に受け入れられるのか、望んでおられるのかということも今の段階でははっきりしないので、あくまで余地を残しておくということで考えている。

松浦教育長 義務教育学校をするならば、いつどこにつくるのか、中学校1校小学校2校の義務教育学校にするとすれば、先生方はどう移動するのか。2校にするのであれば、2校1校の義務教育学校はかなり厳しいということを腹に据えて打ち出していく必要がある。3校のままでいくのであれば、いつまでにするのかを考える必要がある。小学校をどうするかということに関しては、まだまだ協議会の委員さんの意見を精査していかなくてはならない。

東谷委員 仮に、上牧小学校（以下、「上小」という。）・上中だけで義務教育学校をすすめ、上牧第二小学校（以下、「二小」という。）もしくは上牧第三小学校（以下、「三小」という。）が従来どおりという形になってしまうと、6年後に上中へ入学してきたときのギャップはかなり大きなものになる。仮に上小と上中があって、義務教育学校という形が可能であっても、もう1校を残すのであれば、義務教育学校はしてはいけないと思う。

今中町長 教育委員会として、片方は義務教育学校、片方は放っておくというようなことはあり得ない。するとすれば、一体的にやっついていかないといけない。小学校2校もしくは3校を残している間は、義務教育学校はしないし、できない。義務教育学校をするならば、中学校1つ小学校1つの形でないと、校舎が離

れ、先生の移動に時間がかかり、連絡もうまくいかない。上小1校、上中1校だからこそできる関係。すぐには義務教育学校は考えられないということになるであろう。今、教育関係者で義務教育学校を推奨する人は多いが、義務教育学校よりも中高一貫の方が学力を伸ばすには効果的であるという意見もある。小学校と中学校の義務教育学校でいうと4年3年2年という形態が一般的であるが、小学校6年間で教える内容を、4年間で教えることが果たしてよいのかと警鐘を鳴らす人もおられる。学力偏重となり、心の部分が置き去りになるのではないかという部分も懸念されている。

土井委員 小学校3校を2校又は1校にした場合、学校運営や先生方の勤務環境に何かメリットがあるか。

東谷委員 学校の規模が大きくなればなるほど、教員の数が増えるので、校務分担からいうと1人の役割が少なくなり、仕事の量は減っていく。

松浦教育長 教員の資質向上にもつながる。

土井委員 それを考えると、単学級が今後も増えていく中で、先生方の負担はどんどん大きくなっていくのかと思う。

今中町長 今日話させてもらったことが全て決まったわけではない。特に小学校のことについては、協議会において3校を2校又は1校にするという意見が出ている程度で、決まっているわけではない。当面3校のままでよいのではないかというのもひとつの意見であり、また他の意見も出てくるかもしれない。いずれにしても、子どもたちがいきいきと心も体も育ていける形をとることが大切である。そこに行政側の財政的な部分や将来の公共施設の管理の形等も絡むわけではあるが、子どもたちのためにどの方法がよいのか、今後も適正化協議会の中で議論していただき、また皆さまに報告・相談させてもらうことになると思う。今後とも力強いご支援・ご助言をよろしくお願いしたい。